

## 節電ホテル号

試験が終わってほっと一息というところでしょうか。それとも試験の合間の現実逃避・・・じゅなぐてひと休みでしょうか。

いよいよ夏も本番。西瓜の夏、花火の夏、そうめんの夏、海水浴の夏、と夏の色はさまざまですが、今年は何んといつても、「節電の夏」というわけで今回のまめりブのテーマは「環境」です。

### 目次

表・・・椿先生コラム「環境を考える」、おすすめの本  
裏・・・環境を考えるための図書館職員おすすめの本

## 図書館からのお知らせ

### ★7月～9月の開館について

節電に伴い、下記のとおり開館としますのでお知らせします。

7月1日(金)～7月15日(金) , 9月5日(月)～9月30日(金)

平日: 8:30～22:00

土・日・休日: 10:00～18:00

7月16日(土)～9月4日(日) [8月11日(木)～16日(火)は休館]

平日・土・日・休日: 10:00～17:00

※1階のみの利用になります。2階及び3階は消灯します。

### ★附属図書館の冷房について

大学からの指示により、下記の時間帯は冷房を停止します。

7月16日(土)～7月31日(日)

平日12:00～13:00(冷房停止) 15:00～17:00(冷房停止)

8月1日(月)から9月30日(金) 平日12:00～13:00(冷房停止)

※上記の時間帯以外でも、大学の指示により、冷房停止及び消灯をする場合があります。

※冷房設定温度は28度です。節電についてご理解とご協力をお願いします。

### 「環境問題」の難しさ

環境を考えることの大切さを否定する人はあまりいないだろうが、それを切実な問題としてとらえ行動することは難しい。普通の人間にとって、いったん享受した豊かさや快適さを手放すことは容易でないし、自分一人の行動が地球に影響を与えているなどと実感することもない。大気中の酸素の4割を供給するといわれる熱帯雨林が毎秒0.5～0.8haという勢いで消滅していることなど遠い世界の話である。無意識・無関心でいることの罪は大きい。

### 便利さとひきかえに

生活が便利になった反面、失ったものも多い。本学でも90年代までは夏になると毎朝カッコウの澄んだ声が響きわたっていた。高原の避暑地にいるかのような錯覚を覚えた。今や大抵の物がいつでも手にはいるが、季節感は薄れ、かつて大汗をかきながら食べたスイカの瑞々しさは遠いものになってしまった。物にあふれた効率的な生活が私たちの理想だったのだろうか？

### 今こそ「環境」

東日本大震災と原発事故は、私たちに人知・人力をこえた自然の脅威を再認識させたことに加え、暮らしや意識を見直すまたとない機会を与えてくれた。環境を考えることは、自分や日常と異なる世界や人びとに心をよせることに似ている。たとえ直接手を差し伸べられなくとも、不要な電気を消す、他の人に配慮することなら今日からできる。

### 身近な風景から

環境を身近に感じるなら本学のキャンパスは最適である。日々さまざまな植物を目にすることができるし、チョウやカエル、昨年は研究棟前でアオダイショウに出くわした。大風の翌朝には桜の枝がたかさん落ちていて痛々しい。身近な自然や季節の変化に心をとめてみよう。見慣れた風景に新鮮な驚きや発見が隠れている。そして、それは世界や地球への関心とつながっているのだ。

## 椿先生おすすめの本

図書館の  
請求記号

### ★『森と文明の物語—環境考古学は語る』

安田喜憲著 ちくま新書 1995年 [652/YAS]

メソポタミアにはじまる都市文明は森林資源の過度な利用による人為的な環境破壊により発展そして衰退した。森と人・文明とのダイナミックな関わりを花粉分析や考古学の成果をもとにわかりやすく解説。

### ★『失われた景観—戦後日本が築いたもの』

松原隆一郎著 PHP新書 2002年 [518.8/MAT]

電線や派手な看板、ロードサイド・ショップなど、高度経済成長期以降の日本に蔓延した景観とその背景にある豊かさや経済効率性重視の社会のあり方を問う。ありふれた景観や環境の意味するものは大きい。

### ★『ロハス・ワールドレポート—人と環境を大切に生きる生き方』

木村麻紀著 ソトコト新書 2006年 [590/KIM]

欧米を中心に広がった「ロハス」(健康と環境に配慮し持続可能な社会を志向するライフスタイルや社会現象)に関わる取り組みや活動、ビジネスを紹介。

### ★『森林異変—日本の林業に未来はあるか』

田中淳夫 平凡社新書 2011年 [652.1/TAN]

2000年代以降、約8割のシェアを占めていた外国材にかわり国産材の需要が高まりつつある。知っているようで知らない林業や木材需要の実態。日本の林業に未来はあるか。

**モットイナイで地球は緑になる**  
ワンガリ・マータイ著；福岡伸一訳

著者のワンガリ・マータイさんは、アフリカでの植樹運動（グリーンベルト運動）を起こし、ノーベル平和賞を受賞した方です。彼女の勇気と不屈の精神には、感動を覚えました。自分たちの生活がいかに物にあふれ、無駄なものが多いのか。ほんのちよっとの努力を惜しまずするために、どれだけの自然が破壊されているのか。いままで実行できなかったけれど、私もここに、MOTTAINAI宣言をしたいと思います。

**かみなりさま：わが半生記**  
中西悟堂著

鳥とともに文字通り「ハダカ」で生きた男のエッセイ集。1970年の段階で、IT技術導入後の社会の状況を見抜いていたことは慧眼としか言いようがないが、それ以上に著者の自然体そのものの生き方、考え方に驚く。ひとの考えの及ばぬものを自然と呼ぶのなら、人間もまた自然なんだろうという実感が、著者の破天荒なエピソードやなんでもないエピソードから浮かび上がってくる。著者と歩調を合わせてゆっくりと読み進めたい一冊。

**センス・オブ・ワンダー**  
レイチェル・カーソン著  
上遠恵子訳；森本二太郎写真

「沈黙の春」の著者の遺作。自然の神秘さ、不思議さに目を眩る感性を子どもたちに持って欲しいという作者の思いが静かに伝わってきます。写真もステキ。ちょっと立ち止まって、空を見上げたり、風の音に耳を澄ませてみませんか。

古典から最新情報まで、

**図書館職員**

おすすめの10冊

共に生きる



環境を読む

**ダイエットCO2：もっと快適に！エコライフ22の方法 あなたにもすぐにできる**  
デービッド・ガーション著；枝廣淳子訳

「CO2削減のために今日からできること」が具体的に詳しく書いてあります。ひとりできること、から、みんなできること、まで。「これなら私でもできるかも」---できることから始めるために。

誰でもできる・すぐできる

**育てて楽しむはじめての緑のカーテン：ゴーヤー・ヘチマ・アサガオ・ブドウ・パッションフルーツ**  
涼しい、おいしい、自然にやさしい  
緑のカーテン応援団著

夏の強い日差しに、植物の葉で作る緑のカーテンはとても効果的。ゴーヤー、アサガオなど、種まきからカーテンへの仕立て方まで丁寧に解説した本書。あなたも楽しみながら節電対策を。

目をこらして、みる

**写真が語る地球激変**  
フレッド・ピアス著；鈴木南日子訳

私達が住む地球で、様々な環境の変化が起こっています。自然によって起こるもの、文化の発達によって人的に起こるもの、そして・・・。

**地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル：あなたのたいせつなものはなんですか？**  
山本敏晴写真・文

ツバルの子どもたちが大切なものを絵に書きました。ツバルの砂浜、学校、水・・・。子どもたちの写真と、ツバルの美しい風景、人々、どれも暖かくなる写真なのですが、いちばん衝撃だったのは、ゴミがあちこちに捨てられ、堆積している写真でした。写真はツバルのものですが、私が捨てたゴミでもあるような気がしました。本当に大切なものはなんだろうか、今度は私たちが考える番かもしれません。

「環境問題」のはじまり

**沈黙の春 [新装版]**  
レイチェル・カーソン著；青樹築一訳

農薬などの化学物質が環境に与える影響を最初に警告した書で、環境問題の古典として読み継がれている名著。「環境汚染」が毎日のメディアで踊る今だからこそ、読んでもらいたい一冊です。

「子ども」に学ぶ環境問題

**あなたか世界を変える日**  
12歳の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ  
セヴァン・カリス＝スズキ著；ナマケモノ倶楽部編・訳

初めて読んだときは、泣いてしまいました。2度目に読んだ時も、泣きました。何度読んでも、少女の言葉に感動します。

**胎児の世界：人類の生命記憶**  
三木成夫著

胎児の成長に一億年の進化のドラマをみる、真摯な「保健」の教科書。人間も自然の一部だ、という都会に生活していると実感することが難しいことを胎児にみられる太古の面影を通して深沈と感ずることが出来る一冊。しかも著者のキャラクターが抜群におもしろいので、笑えるエピソードも満載。1983年刊行。

1Fエントランスで  
展示中！（7月）